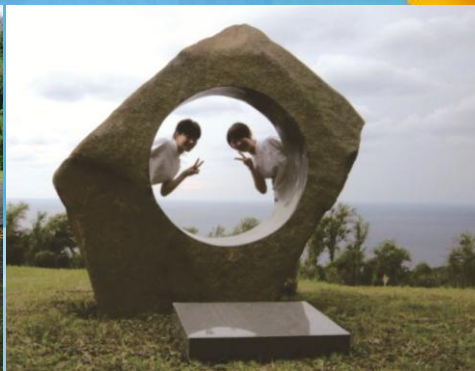


# 鹿児島大学歯学部より感謝を込めて

## - 離島巡回歯科診療同行実習報告 -

鹿児島大学歯学部は、昭和55年から約35年にわたって、鹿児島県歯科医師会と協力して、鹿児島郡三島村、十島村、口永良部島への離島巡回歯科診療を通して、島民の皆さまの歯科保健の改善にあたってまいりました。

平成19年からは、国内外における離島や僻地医療に貢献できる医療人の育成を目指して、歯学部学生が臨床実習の一貫として巡回歯科診療に同行し、診療補助などに携わってまいりました。参加した学生達はこの実習を通して多くのことを学び、将来、社会に役立つ歯科医師を目指して勉学に励んでいます。



### 諏訪之瀬島での巡回歯科診療同行実習を終えて

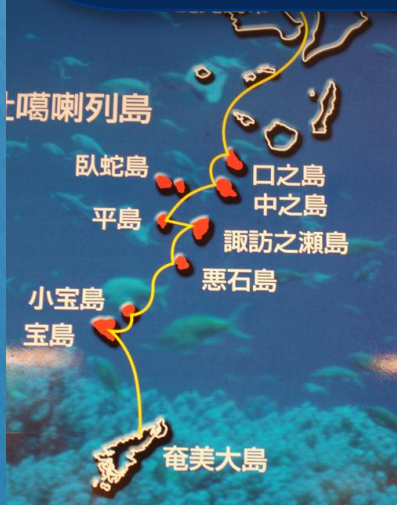
歯学部6年 上村 恭子

平成23年10月、私は十島村の諏訪之瀬島への巡回歯科診療に同行させていただきました。諏訪之瀬島は、鹿児島市から「フェリーとしま」で10時間の位置にあり、活火山「御岳」を中心に、人口約60人の島民が美しい自然に囲まれながら暮らす島です。今回の離島実習は二泊三日の予定で、同行教員の引率のもとに巡回歯科診療隊に同行しました。

諏訪之瀬島での診療は、公民館と歯科巡回診療車「こじか号」で行われ、こじか号は普段、病院で使用しているものと同ユニットに加え、X線撮影もできます。1日目、公民館では成人の義歯調整、口腔内診査を中心に行うために、ポータブルのチェア、エンジン、ライト等を歯科衛生士さんを中心に皆で準備し、診療できる環境が整えられ、診療が始まりました。限られた時間と設備で、患者さんの主訴(うったえ)を可能な限り解決しようとする診療隊の先生の姿を見て、これこそが離島診療で学ぶべき大切なことだと実感しました。

2日目、診療を終了した後、19時より公民館にて「歯」に関する講話が行われました。講話の内容は、小児のう蝕予防と歯周病の予防についてでした。会場へ来られた約30名の島民の皆さんが、一生懸命に聞いておられる姿を見て、鹿児島大学歯学部で将来歯科医師になるために、勉強できていることは幸せなことだと改めて感じました。講話の後、私たち学生も歯科衛生士さんと一緒に、子供たちへの歯垢(しこう)の染めだしやデンタルフロスの使い方を中心としたブラッシング指導のお手伝いをさせていただきました。公民館に来てくれた子供さんたちは、主に小学生でしたが、デンタルフロスの使い方を教えると皆、自主的に清掃に取り組むことができました。「フロスは持って帰っていいよ」と伝えると、「ありがとうございます」と喜んでくれて、衛生指導のお手伝いをしながら、私たちもとても楽しい時間を過ごすことができました。

普段の臨床実習では体感できない、限られた医療環境の中での診療見学および地域の方々との交流の機会を与えていただいたことに、多くの島民の方々に心から感謝いたします。この経験をこれからの歯科医師人生に活かしていきたいと思えます。



鹿児島大学歯学部の同行実習にご協力いただき、誠に有り難うございます。学生による離島巡回歯科診療同行実習におきましては、皆様にご迷惑、ご負担をかけないように、細心の注意を払っております。また、学生による医療行為は一切行っておりません。

万が一、皆様がお気づきのことがありましたら、どうぞ、ご遠慮されることなく以下にご連絡下さい。

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学歯学部 離島巡回歯科診療同行実習実施部会

平成24年4月

## 口永良部島での離島巡回歯科診療同行実習を終えて

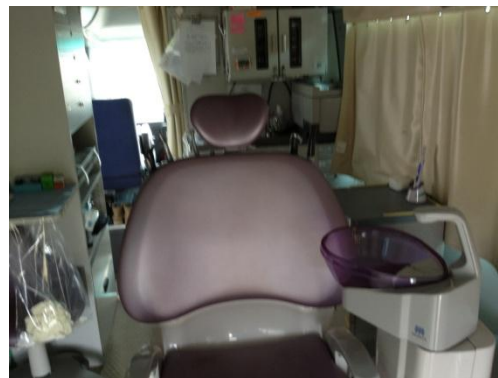
齊藤 泉

私は今回、5月23日から5月26日にかけて口永良部島での離島診療に同行させて頂きました。当初は、5月21日に出発予定でしたが悪天候によりフェリーが欠航したため、少し遅れての出発となりました。私はこれまで離島に行く機会がなく、少し歩けば歯科医院が何軒もあるという生活に慣れてしまっていたため、初めて離島へいくことへのわくわくする気持ちとともに不安な気持ちでいっぱいでした。

診療は、ポータブルの診療チェアと歯科巡回診療車「こじか号」で行われました。ポータブルの診療チェアでは、比較的時間がかからず軽度な症例の治療を行い、設備の揃ったこじか号では多数歯齲蝕や抜歯等の治療を行いました。こじか号はX線装置やオートクレーブも完備しており、チェアも大学病院のものとあまり差はありませんでした。しかし、診療スペースはバスということもありかなり狭く、患者さんは圧迫感を抱くのではないかという印象を受けました。一方、ポータブルの診療チェアはチェアの角度の調整もできず、またライトの明るさも弱く、うがいもトイレの洗面台まで行かなくてはいけないという充分な環境ではありませんでした。どちらにしても大学病院の診療しか知らなかった私は、当初大変驚きましたが、先生方はある材料でできる限り患者さんの希望に沿った診療をなさっており感銘を受けるとともに、いつか先生方のように治療ができるようになりたいと思いました。また衛生士さんは何度も離島診療に同行されているようで、どこになにがあるか次はなにが必要かなど手際よくアシストされていて、自分たちの無力さを痛感しました。



ポータブル診療チェア



「こじか号」の診療チェア

診療のなかで、私は一人のおじいさんと出会いました。その方は、「歯が合わなくて大好きなたけのこが食べられない」という主訴でいらっしやいました。この時期、口永良部島ではたけのこが収穫できるらしいのですが、「義歯が合わなくて噛めないし、おばあちゃんをひとりにできなくて大学病院まで行けないからあなたたちが来るのを待っていた」とおっしゃっていました。先生は、咬合診査や粘膜診査を行い咬合調整ならびに粘膜面に材料を付け足しました。そして患者さんに装着してもらい、状態を確認していました。患者さんは「これで、ようやくたけのこが食べられる」と満足そうに帰られました。そのおじいさんの笑顔を見ると、私まで嬉しくなり充足感でいっぱいになりました、

離島には高齢者が多く、フェリーの便数も少ないため、歯科医院が島内に無いと治療を受けることが難しいようです。そのためこの患者さんのように不具合や違和感、痛みを感じながら生活している方は少なくないと思います。そういった患者さんのQOLを少しでも向上させることが離島診療の意義ではないかと感じました。少ない器具や材料の中で、この患者さんに自分は何ができるか、患者さんの症状をどのように改善または軽減できるかなど能動的に考え、診断・治療することが求められているのだと思います。

島民のみなさまは、私たちにとっても親切にして下さり島のことなどたくさん教えて頂きました。また、子供たちもとても人懐っこくて、学校のことなどを話してくれました。地域での関わりが少なくなっている昨今にも関わらず、口永良部島の人々はみんな家族のような温かい雰囲気にも包まれているのが印象的でした。民宿の方も、おいしいご飯でもてなしてくださって私たちのお世話をしていただき、3泊4日間ではありましたがとても快適な日々を過ごさせてもらいました。



お世話になった民宿



民宿の美味しい食事

今回の離島実習では、臨床実習では体験することのできない診療を見学させて頂き、島民の方には大変感謝しております。この経験を糧に、将来歯科医師として精進していき

と思います。また、このような機会を与えてくださった大学の先生方や県歯科医師会のスタッフの方々にもとても感謝しています。鹿児島大学歯学部の特徴でもある、離島実習は歯科医療について改めて考えるチャンスでもあり、興味のある方はもちろん、たとえ今は興味のない方でも身をもって体感されるべきだと思います。



## 諏訪瀬島への離島巡回診療をおえて

クオン サンホ

私は2012年5月11日から13日まで、2泊3日の日程で、諏訪瀬島での離島巡回診療に同行させて頂きました。去年も参加を希望しましたが、抽選で選ばれず、今年は念願の離島巡回診療同行実習に参加することができました。

鹿児島大学の受験のために、いろいろ情報を調べたとき、鹿児島大学には離島実習があることを分かりました。そして機会があればぜひ参加したいと思っていましたが、6年生になって、現実になりました。今回は小児歯科、冠橋ブリッジ科、歯科放射線の先生、および歯科衛生士2人とともに参加することになりました。

諏訪瀬島は人口が60人くらいの小さい島で、鹿児島からはフェリーに10時間乗ってからこそ行ける遠い島です。私たちは夜11時30分の便を乗って出発しましたが、遅い時間であるにも関わらず、他の先生達の見送りもありまして、私は鹿児島を離れる長い旅にたつような気がしたり、船の上で手を大きく振るのが恥ずかしかったりしながらも、だんだん小さくなる港口の光がきれいだったり、エンジンが噴出す水の音がなんか楽しかったりして複雑な気持ちで出発しました。

翌日10時私たちは諏訪瀬島に到着し、民宿で急いで荷物を片付け、着替えも済ませた後に、診療のための準備を始めました。‘こじか号’には診療に必要なものが沢山入っていて、ある程度以上の診療は問題なく行うことができると聞きました。

準備が終わった後、診療が始まり、私は先生の診療をアシストすることになりました。まずは、健診をした後に、健診の結果、治療が必要とされる子供はX線写真を撮り、保護者の方に説明した後に治療が始まりました。私は、島の子供たちに虫歯が多いだろうと、勝手な予想をしていましたが、実際はきちんと管理されていて治療が必要な子供は少なかったのが印象的でした。後で聞いた話で、島に住んでいる看護師さんの努力と離島診療のおかげで、しっかり歯の健康を管理されてきたことが分かりました。一方、‘こじか号’では、成人の方の診療をがなされていました。バスの中は広くはありませんが、充分診療できるスペースがあり、大学で使用しているチェアと同級のチェアが置いていました。

そして午後5時には1日目の診療が終わり、島を散歩する時間がありました。諏訪瀬島の海は本当にきれいで、島は緑に囲まれて、その中には学校があって、そのグラウンドでは、ある家族が楽しいようにミニ野球試合をしていました。その隣を散歩することはすごく気持ち良い経験でした。

次の日の朝、私は鹿児島に帰るためのフェリーにのりました。諏訪瀬島にいた時間は1日でしたが先生たちは私たちが帰った後にも島に残って診療をしました。そのような先生達の努力で離島に住んでいる方達の健康が守られているだろうなと思いました。今回の実習は私にとって、先生たちと、島の人々と触れ合うことができ、また、離島診療の見学もできて、

貴重な経験になりました。この経験を生かして、社会に貢献できる歯科医師になれるよう頑張ります。離島巡回診療に参加させて頂いてありがとうございました。

## 竹島、硫黄島での離島実習を終えて

左右田美樹

今回、離島実習というものに参加させていただいて、本当にいい経験になったと感じました。さらに、幸運なことに、私たちは2つの島を回ることができたので、それぞれの特色、違いを知ることができ様々なことを知ることができました。

鹿児島島の港からの出発の朝、まず、人口の少ない島に行ったことがない私はいろいろ想像を膨らませ、すごく楽しみな気持ちを持っていました。しかし、反面、そのような場所での治療がどのように行われるのか、実習として、今回自分は何かを体得して、少しでも役に立つことができるのだろうかという不安も持ち合わせていました。

竹島は船で3時間で到着することができる割と本島に近い島でした。

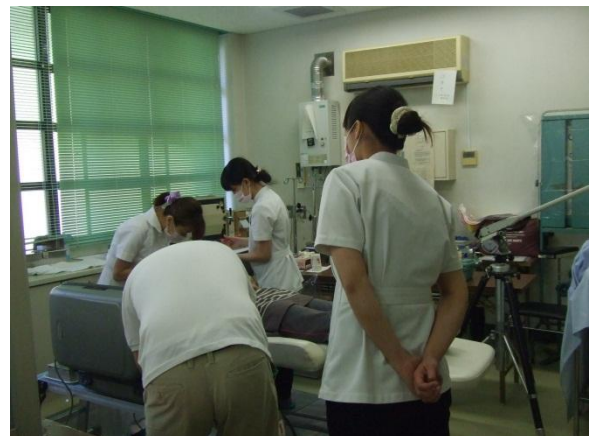
竹島に到着して、全員で協力しながら荷物を診療所に持ち運び、その後宿ですぐに着替えを行い、診療がスタートしました。



診療車～コジカ号～



竹島の診療所



竹島での診療の様子

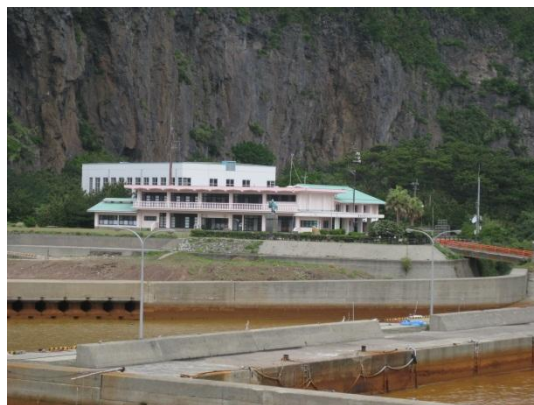
診療は、自分が思っていたよりも、多くの患者さんが来院され、気づいたら診療時間があ

っという間に終わっていました。診療内容は、齶蝕処置が中心でした。2日目は学校検診が行われました。齶蝕を持ち合わせているお子さんもいて、そのまま親御さんの許可が得られれば、治療に取りかけられるのは離島巡回診療ならではの利点であると感じました。また、竹島の2日間の検診を通して、仲良くなった子供さんと、空き時間で遊ぶのがとても楽しかったのを覚えています。

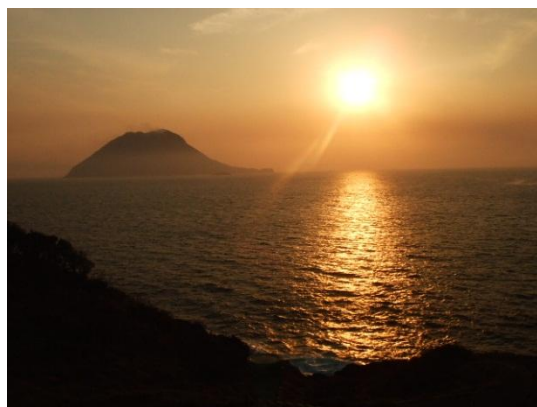
3日目は硫黄島へ移動しました。竹島-硫黄島間はなんと船で30分。硫黄島ではすぐに学校検診が行われ、竹島と同様に治療がなされていきました。硫黄島での診療では、義歯の破折などの補綴的な治療もあり、3日間を通して、様々な治療現場を体験しました。



コジカ号での診療の様子



硫黄島の診療



竹島から見た硫黄島

3日間全体を通して、患者さんがほとんどいない、という時はほとんどなく、それだけ離島巡回診療は必要とされているのだと感じました。また、歯科治療は、ポータブルのユニットとコジカ号、2台のチェアで進行していましたが、ポータブルのユニットは、それぞれの診療する場所に応じて、設置方法を工夫したり、色々考えて使用されていました。しかし、先生方、衛生士さん方は、最大限有効活用して診療を進めており、治療する人の手腕次第で最小限の器具でも治療はできるのだということを、身をもって体験したような気がします。

最後に、我々に貴重な体験を与えて下さった島民の皆様、丁寧に指導して下さった先生方、円滑な治療の進行に不可欠であった衛生士さん、歯科医師会の方々、本当にありが



とうございました。今回の貴重な体験は私を大きく成長させてくれました。これからの歯科医師となっていくにあたってこのような体験ができ、様々な治療の在り方があることなど多くのことを学ぶことができました。本当に心から感謝しています。

# 離島実習を終えて

4307100498 森久保 友紀

今回初めて離島診療の見学をしての感想は「経験できてよかった。」です。私の出身は鹿児島県ではないため、鹿児島の離島はおろか日本のどこかの離島に行ったこともなかったため、離島に行くことは今回が初めてでした。離島診療に行くかどうかを決める段階でも、希望は出したものの離島実習の内容があまりわからなかったし離島がどんなところかもわからなかったので、不安の方が大きかったような気がします。離島診療に行くことと決まってから出発の日まで一週間しかなかったため、出発するまでに心の準備をする暇もなく当日が来て、実際離島に行ってから先生や衛生士さんや、器材のメンテナンスや運転をしてくださる野口さんの指示に従うのが精いっぱいであつという間に帰りの日になりました。

でもその中で、離島には歯科医がいないためこうして一つの島に半年に一回訪れる我々の診療を心待ちにしてくださる島民の方がいること、一緒に遊んでいると私が疲れてもまだまだ遊び足りないほど元気で可愛い子どもたち、フェリーで届く食材などが頼りで何をするにも自分たちの手で協力しながら行う島での生活など初めて知ることたくさんありました。診療では道具が十分でないために苦勞することもありましたが、考えて工夫しながら、協力し合いながら行う診療は先生との距離も縮まり、普段とは少し雰囲気も違つてとても良い経験になりました。離島実習では学生は診療の道具を出し入れするのを手伝ったり、診療では学校検診の記録を取ったり、普段学校で行う歯科治療のアシストと同様のことを行います。

診療の見学以外では、時間があればその島の観光にも連れて行ってもらえたり、たくさん患者さんが来てくれる日には見学といえど疲れるので、その後で格別においしいご飯を食べることができます。そうして過ごすうちに、始まる前は不安だった離島診療も帰る日には少し寂しくなりました。

こうしてたくさんの人にお世話になりながら、学生として離島診療に同行することは他の大学ではなかなか経験することのできない良いプログラムだと思います。そして歯科医になる上で、離島歯科診療の現実やすぐに歯科医院に行けない島民の方への診療の仕方を学ぶことは絶対に貴重で、良い経験になると思います。私は今回離島診療に参加することができて本当に良かったと思っています。竹島、硫黄島の方々、衛生士さん、鹿児島大学の方、先生方、ありがとうございました。



## 離島巡回診療同行実習を終えて（竹島・硫黄島）

中尾 寿奈

4月17日、フェリーみしまに乗って私たちは竹島に向かいました。竹島で2泊、そして3日目は硫黄島に移動して1泊し、4日目に黒島を巡回する診療チームと別れ鹿児島に帰ってきました。竹島は名前の通り竹林が広がりのおかげで、お隣の硫黄島は竹島とは全く違う景色で黄土色の海や、黄色い硫黄が岩肌から出ている硫黄岳に圧倒されました。大自然の中での実習でした。



竹島の大きなガジュマルの木



硫黄島の港は絵の具のような黄土色

歯科巡回診療車のこじか号は1台に何でも設備が整っていて驚きました。しかし公民館に設置した診療設備は普段実習で目にしている大学病院のものとは違い、ライトも自由自在には動かない、機械の調子が悪くても代わりがないのでその場で調整するなど、決して恵まれた環境ではありませんでした。また、各島での診療は約1日半と限られた時間で患者さんに満足していただく治療を行わなければなりません。限られた設備と時間の中にも関わらず先生や衛生士さんたちは、患者さんの話にじっくり耳を傾け普段と変わらない丁寧な診療を提供していました。そして患者さんからの相談にもものっていました。年に2回しか巡回診療は来ないので、痛くならないようにするつまり予防が大切です。患者さんが診療を待っている間や治療後の会計までの時間を有効に使い、子どものおやつ習慣を聞いて間食指導を行ったり、フロスの指導などを行っている光景は普段の診療でももちろんあると思いますが印象的でした。

4月ということで各島では学校検診も行いました。学校検診は普段の実習では参加できないのでとても貴重な経験の一つでした。一般的に学校検診は学校に先生が来て行うものだと思っていたので島の小中学校全生徒が一斉に訪れ、その直後指導やレントゲン写真を撮影して虫歯処置を受けてから帰っていくのはとても驚きました。虫歯が複数ヶ所ある子も限られた時間の中で全部の虫歯の処置を行わなければなりません。レントゲン写真診査を行った後、その場で適切な治療計画を立ててしまう先生にも驚きました。そしてしっかり治療を受けて元気な声でお礼を言い帰って行きました。そんな治療が終わった患者さんの安心した顔や笑顔を見ると私も嬉しくなりました。

昨年私は離島へき地医療人育成センターが主催した北山トレーニングキャンプというものに参加しました。これは始良市の北山地区で地域医療の現状を学ぶというもので、そこで実際に地域の方の御宅に

訪問し直接お話をすることがあり、とても貴重であり印象深いお話が聞けました。今回せっかく離島に行けることになったので、島の方とも島での暮らしについてお話できたらいいなど出発前に思っていました。今回の実習で患者さんに問診をとらせていただく機会が何度かあったので、その際これは良い機会だと思いお話をしました。小さな子供をお持ちのお母さんからは、島で子供が熱を出したらどうされるか聞いたところ、島では感染源がないからかあまり風邪をひかず、逆に県本土に遊びに行くと風邪をひいてしまう話や、歯の痛みを訴えて来られた患者さんからは、「島から診療所のある県本土まで行って帰るのは日帰りではできないし、体力も必要なので今回来てくれて本当に助かる」という言葉を聞くことができました。



こじか号で治療中 X線撮影もこの中で



大活躍のこじか号

今回私たちは3泊4日で竹島と硫黄島の2島に同行させていただき、島にも約68時間と長い間滞在できたことを幸せに思います。3泊4日があつという間に感じてしまうとても楽しい実習でした。離島診療に興味のある方は是非参加してみてください。また今の時点でたいして興味のない方でも行ってみてから考えたり得られるものはあると思います。なので是非チャンスがあれば行ってみてください。

貴重な機会を与えてくださった方々、先生方、歯科医師会の方々、島のみなさん、本当にありがとうございました。短い時間の中で他ではできないたくさんの素敵な経験をすることができました。残りの学生生活、歯科医師になってからも今回の経験を生かせるよう努めて行きたいと思います。そしてまたいつか島を訪れたいと思います。



竹島からみた診療後の夕焼けと硫黄島



全員集合

## 離島巡回歯科診療同行実習レポート（9/10～9/12:諏訪之瀬島）

歯学部5年 4308100311

西井恒雄

残暑続く9月中旬、私は2泊3日の予定で諏訪之瀬島への巡回歯科診療に同行させていただきました。諏訪之瀬島は屋久島と奄美大島に挟まれた南北160キロに並ぶトカラ列島のうちの2番目に大きな島です。島の中心には御岳火山があり現在でも噴煙をあげています。その様な無垢で美しい自然の中に50人程の方が暮らしています。

1日目は船中泊となりました。およそ10時間の船旅となりましたが、それ程船は揺れることはなくて、明日の離島実習に備えて十分に睡眠を取ることができました。

2日目は島に着いてすぐに診療の準備に取り掛かりました。診療は鹿児島県歯科医師会が所有する歯科巡回診療車（こじか号）と公民館の2か所で行われました。歯科巡回診療車（こじか号）は初めて拝見いたしました。全くと言って良いほど診療体制が整っています。一方、公民館の方では主に検診や義歯の調整を主に行うために、歯科衛生士さんを中心にチェアー、エンジン、ライト等を準備致しました。診察が始まり、先生方の限られた時間の中でも最大限患者様の主訴を解決しようとする姿と、歯科衛生士の方の手際のよい行動がとても印象に残りました。

18時に診療が終わり、その後19時より公民館で、歯に関する講和が行われました。夕餉の時間にも関わらずたくさんの島民の方に来ていただきました。特に、昼間の治療や検診で疲れているにもかかわらず、平島小中学校諏訪之瀬島分校の生徒の方々や引率の先生にも来ていただきました。島民の方々と談笑も出来、とても楽しい時間を過ごしました。

その後、宿では降り注ぐような満天の星空のもとでバーベキューをいただきました。先生方と色々なお話ができ、とても充実した1日を過ごしました。

3日目はフェリーの出港前の時間を利用して島内を観光して、改めて諏訪之瀬島の美しさを実感いたしました。フェリーの出港時には多くの島民の方々がわざわざ見送りに来ていただきました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。また、今回の離島実習で同行させていただいた先生方、歯科衛生士の方、そしてコーディネーターの方にお礼を申



し上げます。将来、歯科医療に携わるべく歯学部に進学できたことを改めてうれしく思いました。2泊3日の短い巡回歯科診療の同行でしたが、充実した時間を過ごせました。

## 悪石島での離島巡回歯科診療同行実習を終えて

4307100390 日田 麻衣子



2012年6月15日～17日、十島村悪石島への離島巡回診療に同行させていただきました。悪石島は、鹿児島市から南に約300kmの鹿児島県鹿児島郡十島村に位置し、鹿児島市からはフェリーで11時間のところにあります。

今回の巡回診療スタッフは、歯科医師・衛生士・研修医それぞれ2名ずつ、歯科医師会の運転手兼事務の方1名、私たち歯学部学生2名の計9名で、15日金曜日の夜にフェリーに乗り、悪石島に向けて出発しました。11時間船に揺られ、翌日16日土曜日のお昼頃、島に到着し、14時から診療を開始しました。

診療はこじか号と島のコミュニケーションセンター内に設置したユニットの二つを利用し行われ、まずは島の唯一の学校である悪石島小中学校の生徒、計7名を対象とした歯科検診を実施しました。

学校の先生に引率された小学2年生から中学3年生までの生徒を小児歯科の伊藤先生が診察されました。どの生徒も行儀よく、やや緊張した面持ちで待っていた姿が印象的でした。

歯科医師が常駐していない島であるので、子供の口腔環境はあまり良くないのではないかと不安に思っていました。口腔内は良く磨けており、齲蝕が特に目立つ子供もおらず、比較的良好な口腔環境であると感じました。なかには治療が必要な子もいましたが、それでも小さな齲蝕であったり、経過観察程度の齲蝕でした。要治療となった生徒には、検診後こじか号でCR充填を行い、さらに第一大臼歯萌出がみられた生徒には予防充填を行いました。

また、小中学生という年齢は、乳歯の脱落と永久歯萌出の時期にあたるため、咬合状態も重要な検査項目でした。わずかな検



センター内に設置したユニット。ライトは暗く、ライト付きミラーを用いて診療を行っていた



ポータブルタイプのエンジンやバキューム

診時間内で第一・第二大臼歯萌出の状態に注意しながら、咬合状態の確認、また付き添いの保護者の方から咬み合せに関する相談を受けることもありました。離島という歯列矯正治療を行うことが困難な状況であるため、半年に一度の巡回診療が児童の口腔環境の維持にいかに重要であるかがよくわかりました。

続いて15時からは成人を対象とした診療が始まりました。コミュニケーションセンター内では冠ブリッジ科の村口先生が義歯調整を、また村口先生の指導のもと研修医の先生が義歯調整をされることもありました。一方、こじか号では主に保存治療が行われました。こじか号にはレントゲン撮影の設備が整っており、医療面接後、必要な部位のデンタルを撮影し、検査・診断後、CR 充填や感染根管治療、また暫間的補綴治療を行いました。決して広くはない車内での治療は必要最低限の器具しかチェアに出せないため、必要に応じてすばやく器具出しをされる衛生士さんの役割が大変重要だと感じました。



今回の離島実習では、診療にわずか一日しか参加できませんでしたが、離島診療の意義、そして重要性を知ることができました。また、限られた設備・時間・環境でどのようにして効率的に診療を行うのかなど、大変勉強となりました。これらは普段の大学病院の外来での実習では決して学ぶことはできないことであり、このような経験を与えて頂き、とても感謝しています。ありがとうございました。

